

Peach は就航 5 周年を迎えました。 ～Peach の 5 年は、日本 LCC の歴史～

- ・ 2017年3月1日で就航5周年
- ・ 就航以来の累計搭乗者数は、1700万人以上
- ・ 潜在需要を開拓し、日本のインバウンド需要とLCC業界を牽引

Peach Aviation 株式会社(以下:Peach、代表取締役 CEO:井上 慎一)は、本日3月1日に就航5周年を迎えました。



Peach は、日本初の LCC として、「日本とアジアのかけ橋」を目指す空飛ぶ電車をコンセプトに、関西空港を本拠点に 2012 年 3 月に就航しました。首都圏よりアジアに 1 時間近い関西空港の利点を生かした、独自の経営モデルをベースに、日本の航空史上最速のペースで国内線、国際線を展開してきました。就航 8 カ月後の 2012 年 11 月には、累計旅客数 100 万人を突破し、2014 年 4 月には 500 万人、2015 年 8 月には 1000 万人を突破し、これまで累計 1700 万人以上のお客様にご利用いただきました。

Peach が就航した 2012 年は、日本の LCC 元年と称され、2012 年の時点では 5%にも満たなかった日本の LCC のシェアは、現在では 10%を超えるまでになりました。(典拠:国土交通省航空局)

さらに、2012 年以降の関西空港においては、アジアからのインバウンド旅客数が首都圏の主要空港と比べ飛躍的に増加したことが示している通り、Peach は日本のインバウンド需要を牽引してきました。その結果、関西で誕生した日本の新しい航空会社が、アジアでも認知されはじめ、2015 年 11 月には、CAPA(航空業界における独立系シンクタンク)より「アジア太平洋地域 LCC オブザイヤー」を北東アジアの LCC として初めて受賞することが出来ました。

また、Peach の顧客層も特徴的で、フーシアピンクを基調とした機体のデザインなど、女性をメインターゲットとしたことで、それまでほとんど飛行機を利用しなかった方々にも多くお乗りいただきました。近年ではお客様の 3 割近くが 20 代～30 代の女性となっているほか、国際線の外国人搭乗比率が 7 割を超えるなど、航空利用の潜在需要を開拓することを通じて、空飛ぶ電車 Peach が、言葉の通り電車のように日常使いされ、Peach を利用した新たなライフスタイルが各地で生まれています。日帰りでの海外旅行など、お客様自身で全く新しい旅のスタイルを創りだしていただいている点も、Peach ならではのことで



代表取締役 CEO の井上慎一は、「Peach はこの 5 年間、日本の航空業界で最速で事業を展開し、不可能と言われていた数々のことを可能にしながら突き進み、『最も成功している日本の LCC』と評価をいただくまでになりました。これもひとえに、これまでご利用いただいたお客様、そして支えてくださったファンの皆様、自治体や関係者の皆様のお陰です。本当にありがとうございます。就航当初、日本で LCC など根付くはずがない、便数減、旅客数減に悩む関西空港を拠点にした航空会社など成功するわけがないなどと散々な言われようでしたが、今では、LCC は日本でも広く認知され、関西空港は人々でごったがえし過去最高の利用者が訪れています。私たち Peach は、これまでと同様、他のエアラインにない独自性を追求し続け、アジアの人々に笑顔をお届けする航空会社を目指して参りますので、引き続きのご利用、ご声援のほどよろしくお願いたします」とコメントしています。

今後も Peach では、日本の航空業界のイノベーターとして、日本とアジアの空を Peach カラーに染めてまいります。就航 5 年目からの Peach の物語も、どうぞご期待下さい。

[Peach について\(www.flypeach.com\)](http://www.flypeach.com)

Peachは、2012年3月に関西空港を拠点として運航を開始しました。2014年7月には那覇空港を関西空港に次ぐ拠点空港とし、2015年8月には羽田空港に就航しました。現在、18機の機材で、国内線14路線、国際線13路線に就航し、1日あたり90便以上を運航するとともに、13,000人以上のお客様にご利用いただいております。また、2017年度には仙台空港、2018年度には新千歳空港を拠点空港とする予定です。